

ふるさととよさが 今と昔

その2 宿場町・木崎

■明治33年の宿場町 (木崎・三柱神社裏)

これは、春祭りの風景。写真中央にのぼりが立っている。ここを中心に、10数軒の旅館があった。



←のぼり



現在、旅館は全て廃業し、民家となっている。

■大正末期の萬屋 (内島見)

当時では珍しかったバイクが写っている。左隣にあるのは旧木崎郵便局。



現在店は廃業したが、木製の格子が当時の面影を残している。

木崎村はその昔、新発田川（新発田川）の舟運を利用した交通の要衝でした。新発田から新潟を往来する際は、新発田から木崎まで街道を歩き、木崎から舟に乗って新発田川へ新井郷川へ阿賀野川へ通船川を経由し、信濃川河口へ行くというルートが一般的でした。舟の発着地点である木崎には10数軒の宿屋が連なり、江戸から明治時代にかけて、宿場町としてにぎわっていました。その後、鉄道やバスが走るようになると木崎で宿泊する人は減っていき、大正末期、最後の旅館「水戸屋」の廃業とともに、宿場町・木崎はその役割を終えました。



「ふるさとの宝」大公開

4月29日(祝)から5月30日(日)まで博物館で、「豊栄市の文化財展」が開催されました。

市指定の有形、無形文化財21件などを展示。また、市内の文化財「鳥屋遺跡」「高森大ケヤキ」などを見学するバスツアーも行われました。

全国大会に出場

第13回高等学校全国選抜剣道大会に出場

(3月27・28日 愛知県 春日井市で開催)



近藤 栄理さん (新潟明訓高校3年・柳原)

第35回高等学校全国選抜春の高校バレーに出場

(3月20～22日 東京都代々木体育館で開催)



市島 未希さん (新発田商業高校3年・白新町1)



小林 絵梨香さん (新発田商業高校2年・大迎)

第10回リトルシニア野球全国大会に出場

(3月29日～4月4日 大阪市で開催)



佐久間 基紀さん (木崎中学校3年・内島見)



若月 健人さん (木崎中学校2年・内島見)



「子どもとメディア」について考える

4月23日(金)から5月12日(水)までの「子ども読書週間」にちなんで、図書館でさまざまな催しが行われました。

5月8日(土)にはふれあいセンターで医師の田中篤さんを招いて記念講演会が開かれ、部屋は幼い子どもを持つお母さんたちで満員に埋まりました。



なつかしい風景と記憶に出会う

5月30日(日)まで、ビュー福島潟で日本水彩画会三人展「水辺・里山・福島潟を描く」が開催されました。

NPO法人ねっとわーく福島潟の企画展で、酒井保嘉さん・五十嵐道雄さん・月岡徳恵さんが描いた美しい自然やなつかしい田植え風景など、訪れた人たちは時を忘れて、自分の記憶と出会いながら作品を楽しんでいました。



雄大な北海道常呂の「一本の樹」の写真展

ゴールデンウィーク中環境と人間のふれあい館には、イタヤカエデの四季折々の美しい写真が展示されました。

200年、町を見守るように立つこの樹を、常呂町職員・表 政治さんは10年間撮り続け、写真集にしました。このことが町や環境のことを考えるきっかけとなり、今は地域の「人」にスポットを当て活動を続けています。

「地域思い=地球思い」地域や環境を考える地道な活動の輪が広がることを願った写真展でした。



県トップ選手による「子どもテニス教室」

毎月第2・第4土曜日に総合体育館脇のテニスコートで「子どもテニス教室」が開かれています。コーチは、新潟県トップ選手の風間亜希子さんと安藤純子さん。ラケットの構え方やボールを当てる練習を繰り返し、指導していました。

安藤コーチは「私たちが始めたときは、このような環境がなかった」と始めるきっかけを話してくれました。参加した五十嵐千佳さん(早通南小5年生)は「ボールをよく見ることが解った」「ずっと続けていきたい」と汗を拭きながら話してくれました。



オリジナルの彫刻づくり

4月29日(祝)、中央公民館で岩間弘彫刻展に併せて彫刻家荻野弘一さん(阿賀野市在住)の指導による、「オリジナル彫刻をつくろう」が行われました。

穴のあいた木材に針金を指し込み、それを組み合わせてさまざまな作品作り。クワガタを作った西山拓登くん(葛塚東小5年生)は、「クワガタの角や歯の部分が難しかった」と話してくれました。